

2026 年度法科大学院入試（C 日程）【一般論文試験問題】 出題趣旨及び採点基準

〈出題趣旨〉

本論述問題は、①一定の長さの文章を読み、その内容を的確に理解し、整理して要約する力、及び、②両立することが困難にも思える2つの視点の関係をめぐって存在する問題等について、自身の考えを論理的に展開する力を測ることを目的とするものであった。

〈採点基準〉

問1（30点）

問1は、①の力、すなわち、読解力及び要約力を問うための問題であった。本文で説明されている「有効な自由」と「プロセスの自由」についての的確な理解のもと、2つの自由について整理して要約できているか否かを確認した。

前者については、「できる自由」、「行為する機能／ある状態になる機能」としての機能空間（ケイパビリティ）を持てる自由といった言葉を使って、本文に書かれた内容を適切に要約できているか、後者については、「できる自由」との関係に触れたうえで、機会の自由、強いられない自由といった言葉を使って、本文に書かれた内容を適切に要約できているかを確認した。

問2（30点）

問2は、②の力を問う問題であった。支援と自律の間には、パラドキシカルな関係が存在するといわれているが、意思決定支援や生活困窮者の自立支援などの権利擁護の取り組みにおいては、両者がともに求められる重要な要請であるとされている。以上の点を踏まえつつ、支援と自律の両立可能性、及び、支援と自律の関係をめぐって存在する問題のそれぞれについて、自身の考えを、そう考える理由を付して論述することができているか否かを確認した。

その他

- ・議論の流れの一貫性や主張の明確さが目立つ答案に、最大プラス40点。
- ・字数が極端に少ない答案は大幅減点。誤字脱字は著しい場合にのみ最大マイナス20点。